

教科	児童・生徒の学習状況分析	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値
	更に工夫したい点		評価(◎、○、●)
国語	・目的に応じて文章の要旨を的確に捉える力に個人差がある。また、読み取る力が不十分で、文章を読み深めることを楽しめない児童がいる。	・叙述を根拠に登場人物の心情や筆者の考えを読み取ることを、丁寧に指導する。	◎単元ごとにノートに考えをまとめた学習感想を書かせる。
	・目的や意図を明確にして内容を整理し、考えを述べることを苦手とする児童が多い。	・短時間で、順序立てて整理した文章を書き、推敲する経験を積み重ねる。	○作文を書く時間を確保する。(週1回) ○自分の考えや想いを文章にする練習を授業の中で行う。
社会	・覚えることが多いと感じ、苦手意識をもっている児童がいる。	・出来事や人物についてエピソードを紹介したり、知っていることを出し合わせたりして関心や疑問をもたせ、学習問題づくりをする。 ・歴史上の人物や出来事を関連付けてまとめたり、その人物や出来事が時代に与えた影響について捉えたりさせる。	◎授業の中で、ノートに自分の考えや感じたことをまとめさせる。
	・資料から必要な情報を正しく読み取ることを苦手とする児童が多い。	・人物図や地図、グラフなどの資料を授業で多く活用し、複数の資料の共通点や相違点を見つけて考えをもたせる。	○学習のまとめプリントやワークテストで理解の定着や課題を見取る。(正答率70%)
算数	・数量関係や量と測定の領域、割合や単量当たりの大きさに関する問題について、苦手意識をもっている児童が多い。	・朝学習で東京ベーシック・ドリルから、児童の実態に合った効果的な問題を選んで繰り返し復習する。	◎ワークテストや東京ベーシック・ドリルの正答率70%以上。
	・問題場面を理解して立式する力に課題がある。	・問題場面を数直線や表などに整理して正しく立式する活動を計画的に取り入れる。	◎作図や数直線、立式等の考えが表現できるか確認する。(単元で2回以上)
理科	・人の体のしくみ、電流や回路について、理解の定着が不十分な児童がいる。	・単元の導入やまとめで、図やイラストを使ってまとめる活動を意図的に取り入れていく。	○当該単元では必ず、図やイラストを使ってまとめるようにし、ノートをチェックする。
	・根拠をもった予想・仮説を立てて実験・観察方法を考えることや、結果からより妥当な考えをつくること、また、それらを適切に表現することを苦手とする児童がいる。	・既習事項を根拠に予想を立て、実験結果を表やグラフに整理して考察し、考えを交流するなかで学習を深める。	○学習ノートや実験グループでの話し合いの内容から見取る。3学期までに、7割の児童が予想や考察を適切に表現できるようにする。
音楽	・合奏で、自分の役割を理解して、考えて演奏することに課題がある。	・主旋律の所、副旋律の所を楽譜に記入させる。	◎ワークシートを活用して、どこに気を付けて演奏するか見取る。
	・感じたことをどのような言葉で表現したら良いのかわからない児童がいる。	・知覚と感受をセットにして音楽を鑑賞できるように、言葉リストを教室に提示する。	◎鑑賞カードを掲示して、児童同士で書き方を見合えるようにする。
図画工作	・発想力にかなり個人差があり、作品化に見通しがもてない児童が少なくない。	・試行錯誤する活動の時間を十分に確保し、自分の好きな表現や作りたいものを模索できるようにする。	◎試した結果をアイディアメモや設計図としてまとめ、活用させる。(1題材につき1回以上)
	・互いの作品を見合い、自他のよさを認める経験が十分ではない。	・鑑賞や振り返りの時間を意図的に設け、よさを共有させたり、児童が自分で気付かないよさを発見させたりする。	●各題材で、製作の中盤と終盤に意見交換を実施する。
家庭	・家庭で手伝いを積極的にしている児童と手伝いを全くしていない児童の技能面に差が見られる。	・家庭での生活で積極的に手伝いができるよう、長期休業中の課題に取り入れられたり自主学習で手伝いに取り組んでいる児童を紹介したりして、家庭での実践意欲を高める。	○自主学習ノートやワークシートの振り返りから見取る。(単元に1回以上)
	・得意な児童が調理や制作の活動で活躍するため、苦手な児童のスキルアップが課題である。	・全ての作業を一人一回は体験できるように、声を掛けたりワークシートを工夫したりする。 ・得意な児童は苦手な児童の手伝いをする際、やってあげるのではなく、方法を伝えるように指導する。	○ワークシートに作業のチェック項目を作り、全て行えたかどうか確認する。 ●交流の様子から見取る。(単元に1回以上)
体育	・自分の課題を見つけて体力や技能を高めようとする意欲に個人差がある。 ・運動量を確保する工夫が必要である。	・学習カードを活用して運動のポイント等の理解を深め、自分に合った目標をもって技能向上を図る。 ・グループ学習を効果的に設定し、お互いに助言し合い、認め合いながら学習を深める。	○学習カードでの自己評価から見取る。(単元で2回以上) ○毎時間の学習や話し合いの様子を観察し、成長を見取る。
	・自分の体に関心を持ち、学習内容を生活に生かそうとする意欲を高めたい。	・病原体に起因する病気や生活習慣病などを予防するための方法について理解を深めさせ、実践につなげていく。	○学習プリント、ワークテストで理解の定着を図る。(正答率70%)
徳 特別の教科 道	・自分事として考えることが苦手な児童がいる。感想を書かせても、なかなか筆が進まない時がある。	・より自分事として捉えられるよう、担任の体験談を話したり児童同士の身近な体験談を交流したりする。	◎ワークシートから見取る。(学期ごとに5回以上)
	・自分の意見をもちつつも、友達の見解に流されてしまい、自分の意見は間違っているのではないかと思ってしまう児童がいる。	・ワークシートを書いたら消さずに、友達の見解を追記するよう指導する。 ・思ったことを素直に書くように促す。	◎ワークシートや記入している様子から見取る。(学期ごとに5回以上)
外国語	・自信がなく、1人で発音したり発表したりするのが苦手な児童が多い。	・発話の回数を確保し、ALTの発音を繰り返し聞かせることを意識して、学習活動を精選する。	○毎回の授業で行動観察を行い、声の大きさや表情を観察する。
	・書くことに苦手意識があり、活動の作業時間に差が見られる。	・定期的に家庭学習でも英語を書くように声掛けをし、授業時間内でも書く時間を確保して、「書く」ということに慣れさせる。	○毎回の授業のノートを確認する。また、自主学習で取り組んできた児童のノートを紹介する。
総合的な学習の時間	・自ら立てた課題について情報を収集したり、整理してまとめたりする力をさらに高める必要がある。	・個人でまとめる単元を設定したり、グループでまとめる時には役割分担を担当が把握したりして、どの子にも課題をまとめる機会を確保する。 ・単元全体の計画を立て、学習の見通しをもたせる。 ・自分の課題に応じてどのような情報や資料が必要か考えさせ、図書、インタビュー、インターネットなどから的確に調べる力を身に付けさせる。	○学習の計画表やワークシートを確認する。(毎時間) ○学習の経過を確認し、適切にアドバイスする。(毎時間)
	・社会に参加しようという意識をもって主体的に学ぶ意欲を高める工夫が必要である。	・体験的な活動から課題に気付かせる。 ・考えを明確にして発表し、さまざまな視点から意見交流をして考えを深める。	◎全員1回以上は発表の機会を設け、発表内容や意見交流の場面で見取る。